

石狩市備品台帳作成について 経過報告

時 期	内 容
平成24年	
4月	目的、方策等 提示 市内全員に調査を行う確認
5月	備品に関する調査 配布 〆切5月末まで
6月	調査集計、考察作成
7月13日	調査研修部会 ・調査結果報告 → 現状把握、意見交換 ・考察について → 交流、意見交換(別紙「『備品台帳に関する調査』の結果を受けた現状の考察とこれからの方向」を参照してください) ・八幡小学校の台帳をたたき台に考察等を踏まえ問題点、変更したい点を指摘。次回までに反省点を踏まえた台帳を作成。
9月25日	調査研修部会 ・前回の部会での問題点を踏まえ作成した試作品台帳をチェック。 ・学校に「備品台帳システムの今後の進め方について(平成16年度発出?)」という文書が存在する。 →内容：入力範囲ー平成15年度以降。それ以前については進行状況を見ながら入力か、検討
10月15日	教育委員会担当との話し合い ・「備品台帳システムの今後の進め方について」の文書と試作台帳を持参。 ・市教委の管理状況等の確認 ☆データ(エクセル)、アクセス、紙台帳の混合。欠けてる部分も見受けられる。廃棄は台帳等と照合してあるものは記入。 ☆定義：1万円以下なら耐久年数があっても消耗品になる。
11月15日	定例会・学校間連携会議 進捗状況等報告 確認：市教委がその形(紙、アクセス、エクセル併用)であれば同じようにしていく。無理をしない。 問い合わせ ①文部科学省に「整備指針」がある。 ②他市に、「小学校教材整備指針」があり、それによって運用している。 ↓ 文部科学省が方向を示し、使用している自治体があるということで、同様にそれを生かした「教材備品台帳」を作成、「指針表」も作成して意見をもらうことにした。
平成25年	
2月8日	3次集会 意見、質問 教材備品台帳 ①文部科学省の指針について 市教育委員会は、この指針を守って(活用して)いくのか？ ②変更した場合、分類が変わると今までのものも全部変わってしまうことになる。台帳、ラベル共に。そうなった場合どう対応していくのか。 ③全体の物(教科別ではないもの)があればよいのではないのか？ ④ラベルをどうしていくのか？

2月22日

教育委員会担当との話し合い

文部科学省の指針入り台帳を持参
市教委の見解

☆文部科学省の指針について

教育委員会があくまで整備していくための目安。必ずしも台帳とリンクしなくても良い。指導要領が変わったらまた変わる可能性が高く、普遍的な物ではない。

☆台帳は『学校でどういう物がいくつあるか?』という管理のしやすさが大切であり、今までの中分類を生かした方がラベルの変更がなかったり、継続性があり使いやすいのではないか?

☆全体のものだけで良いのではないか?(教科別にしない)

形に関してはお任せする。みなさんのやりやすいようでよいと思う。

☆理科、算数についても加えてほしい。現在、パソコンにある「理科教育設備台帳」「算数教育設備台帳」は個別物品の管理ということに関しては役に立たない。『教材備品台帳』で物品の管理、『教育設備台帳』で数字の把握をしてほしい。

☆ラベルに関しては

項目がきちんと共通していれば、どれでも可です。

2月28日

調査研修部会

教育委員会との話し合いを受け以下のように進めていくことを提案。

①学校管理備品に関しては特に話しもないので現状通り進めていくこととする

②教材備品台帳に関しては

a) (継続性を考え) アクセス、紙台帳時代の中分類を生かしていく

b) 基本は、全体の台帳&廃棄台帳を作成する。

(各教科毎の台帳はオプションとする。)

③理科・算数数学を加える。

④ラベルに関しては同様の項目としてラ、シールを臨機応変に使用する。

以後、備品台帳の作成を行う。

学校管理備品～現状の通り

教材備品台帳～当初は全教科1本の台帳にしようと考えていたが、旧の分類をいかす方向と台帳のつくりやすさから教科毎の台帳にして作成。

理科・算数台帳～理科教育設備台帳、算数数学教育整備台帳の分類を基に(リンクするように)作成。

他に、備品台帳の手引き(マニュアル)を旧の手引きをもとに作成。

7月10日

教育委員会担当との話し合い

作成した備品台帳(紙媒体、パソコンデータ)を持参。

最低限としてアクセス以降は入力。それ以前はカードが残っていて入力が難しい場合はカードで管理でも可能。と確認

備品台帳の手引きもあわせて持参。、認識の違いによる相違、文言の訂正等を依頼。

8月5日

教育委員会担当との話し合い

備品台帳の手引きの訂正箇所を確認。